

今号から増ページ！リニューアル記念号

あわらし市議会だより

あなたに届け！

変わるぞ！議会

特集

2-3p 変わる議会

NEW!

10-11p 各委員会の活動報告



vol.89

2026 summer

6月定例会

変わる議会

市民にもっと開かれた議会へ。わかりやすく、関わりやすく、そして、しっかり成果を出す議会へ。議会改革を着実に進めています。

Point 1 見える、議会。

議会の活動や情報を、わかりやすく"見える化"します。



実施しました

✓ 本会議・委員会のオンライン生配信

本会議・委員会の生配信をインターネットで実施。どこからでも議会の様子をご覧いただけます。

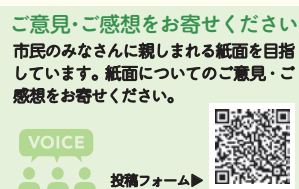
✓ 議会だよりのカラー化 (8ページから12ページへ拡充)

より見やすく、伝わりやすい紙面へ。ページ数を増やし、内容も充実させました。

検討
しています

● 広報広聴ビジョン策定に向けた議論

より効果的な情報発信や市民との対話のあり方をまとめるビジョンの策定を進めています。



9月定例会のお知らせ						
会期 8月28日(金)～10月8日(木)						
日	月	火	水	木	金	土
23	24	25	26	27	28	29
				人口減少対策 特別委員会	本会議 予算決算 常任委員会	
30	31	9/1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
			議会活性化 特別委員会	総務厚生 常任委員会	常任委員会 (予備日)	
13	14	15	16	17	18	19
				産業建設教育 常任委員会 (予備日)	本会議 (採決等) 広報広聴委員会	
20	21	22	23	24	25	26
				総務厚生常任委員会 (決算審査)		
27	28	29	30	10/1	2	3
				常任委員会 (予備日)	産業建設教育常任委員会 (決算審査)	常任委員会 (予備日)
4	5	6	7	8	9	10
				予算決算 常任委員会	本会議 (採決等)	

※日程は都合により変更されることがあります
※傍聴をご希望の方は議会事務局までお問い合わせください

Point

2 関わる、議会。

市民の声を聴き、一緒にまちの未来を考える議会へ。



実施しました

✓ 議員と語ろう会の機能拡張

- ① 随時募集の導入
- ② アフレアでの発表会形式の導入

詳細・申込は
こちら



いつでも申込みできるようになりました。学びや意見を共有する場を拡大します。

✓ こども議会

(小学生議会・中学生議会・高校生議会)

未来を担う子どもたちが、まちづくりについて考え、意見を発表します。



検討
しています

● 市民モニター制度の議論

市民の皆さんから継続的にご意見をいただく仕組みを、検討しています。

Point

3 実行する、議会。



議会の仕組みや運営を見直し、しっかりと成果を出す議会へ。

実施しました

✓ タブレット導入

議会運営の効率化と情報共有の迅速化を図るため、議員にタブレット端末を導入しました。



検討
しています

● 議員定数の議論

● 政策サイクル導入の議論

(※議員の政策提言を活性化する仕組み)

議会の役割や運営について、よりよい形を目指して議論を進めています。

● 政務活動費の議論

● 議会評価制度導入の議論

議会は、これからも変わり続けます。市民とともに、より良い未来のために。

一般質問

今回は、10名の議員が行政全般や将来の方針、政策について、市の考えを直接問いただきました。議員一人の質問時間は25分。議員にとっては日頃の課題を調査・研究し、整理した思いを市に問う場です。議員の質問に対し、市からは真摯な答弁がありました。

スマホで動画が見られる！

各議員の名前横に掲載しているQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと動画の視聴ページをご覧ください。

…質問の趣旨

…議員の質問

…市側の回答

…最後に一言

各議員の熱きテーマ

topic 01

5歳児健診

topic 02

地域福祉と機能の維持

topic 03

学校施設の維持管理

topic 04

教育の関係人口創出

topic 05

小学校通学の安全確保

topic 06

教育への生成AI活用

topic 07

地域農業への支援

topic 08

部活動地域移行

topic 09

ふるさと住民登録制度

topic 10

県水の二部料金制

topic 01

見澤 勇三 議員



テーマ 発達障がいの子供たちへの支援と「5歳児健診」について

子育て世代のお母さんから、お子さんの発達に関する相談をうけ、市の支援体制について質問した。

Q 保護者からの相談窓口の体制は。

A 身近な相談窓口として、こども家庭センターをはじめ子育て支援センターやこども園、学校などがあり関係機関と連携しながら必要な支援を行っている。

Q 専門職によるフォローアップ体制は。

A 保育カウンセラーが就学前の子どもの発達状況や行動特性を把握し、保育教諭や保護者に対して助言や相談支援を行っている。

Q 保護者への丁寧な説明や段階的な支援の取り組みは。

A 医療機関や市担当課などの関係機関につなぐ際には、

保護者と面談を重ねながら、丁寧に寄り添った対応を行っている。

Q 児童発達支援、放課後等デイサービス事業所の支援内容と利用状況は。

A 日常生活の基本的な動作や集団生活への適応訓練、コミュニケーション能力を中心とした社会性向上のための訓練をしている。また、令和7年度の実利用者数は、児童発達支援が24人、放課後等デイサービスが98人となっている。

Q 学校生活における支援体制の現状と課題は。

A 一人ひとりの特性や教育的ニーズに応じた合理的配慮や学びの場を検討し、関係機関と連携しながら状況の改善に努めている。

Q 「5歳児健診」の導入は。

A 本市では来年度からの導入に向けて準備を進めており、他市町の例を参考にしながら、内容や課題を踏まえて関係機関と協議し、親子支援の視点に立って着実に実施していく。

topic 02

青柳 篤始 議員



テーマ 地域福祉と集落機能の維持について

人口減少や高齢化が進む中、区長や民生委員など地域を支える担い手不足が深刻になっている。私は、地域は突然なくなるのではなく、人とのつながりや役割が少しずつ失われながら弱っていくと指摘した。また、行政だけでなく、ご近所付き合いや福祉事業所など地域にある力を生かし、「支えられる人を支える」だけではなく、「支えている人を支える」視点が必要ではないかと質問した。

Q 地域福祉を支える担い手不足や地域機能の低下に対し、市はどのように取り組むのか。

A 市は、人口減少や高齢化による地域機能の低下に強

い危機感を持っており、区長アンケートでは約8割の地区が担い手不足、またはその予備軍であると答弁した。また、地域に根付く支え合い文化を大切にしながら、行政や福祉専門職、福祉事業所、社会福祉協議会などと連携し、地域課題の共有や相談支援体制の充実を図るとともに、地域サロンなどへの支援や、地域にある人材・知識・経験を生かした地域づくりを進めていく考えが示された。

今回の議論では、「支えている人を支える」という視点の重要性について、市と認識を共有することができた。地域福祉は福祉だけの問題ではなく、防災や見守り、子育てなど地域そのものを支える土台である。地域の支え合いの力を次の世代へつなげられるよう、これからも現場の声を大切にしながら提案を重ねていきたい。

topic 03

堀田 あけみ 議員



テーマ 学校施設の維持管理の徹底について

学校施設は、子どもたちの学びだけでなく、災害時の避難場所として、人が集まる場所である。それだけに、何倍も安全性を確保しなければならない。

Q 学校施設の維持管理の徹底についての文部科学省通知で、報告義務がなくても、有資格者による専門的点検を実施するようにとの要請があり、また第3次学校安全の推進に関する計画の中に専門的な点検を実施して、不具合を早期に発見し、適切な維持管理を実施することにより、事故を未然に防いでいくため、技術職員が在籍する首長部局との連携や、民間委託などにより、安全点検の実施体系の強化に努めると記載があるがどうか。

A 施設の安全確保の観点から、各学校において教職員等による日常点検を実施している。この点検では、校舎内外

の破損や雨漏り、設備の不具合、遊具や手すりの状況などを確認している。

また、専門的な視点による点検の重要性については、認識している。施設の状況を踏まえながら、有資格者による定期的な点検の実施について、検討していく。

テーマ 障害者福祉について

福祉サービスは、地域間で、支援の差が生じることがないように、行政として、すべての地域に適切な対応ができる体制が必要。

Q 児童発達支援センターが担う中核機能の一部があわら市内にあれば、もっと利用者が利用しやすいのではないかと。

A 国の方でも、拠点を持っていない場合は、市内の児童発達に関わる既存の支援機関が、それぞれの役割を果たし、連携することで補っていくという方向性もあるので、児童発達支援センターが担う相談や支援機能を分担して補完できるような体制を整えていきたい。

topic 04

野沢 裕希 議員



テーマ 教育環境を活かした関係人口創出と地域戦略について

Q 本市では、人口減少が進む中で、移住・定住の促進と関係人口の創出が大きな課題となっている。本市が持つ教育環境も、人を引きつけ、地域との継続的な関わりを生み出す入口になり得るのではないかと。少人数学校によるきめ細かな教育や地域とのつながり、ふるさと教育といった教育環境の強みをどのように認識しているのか。また、教育環境を本市の魅力として発信し、移住・定住や関係人口創出につなげていく考えはあるのか。さらに、教育環境を活かした教育交流や先進事例の調査・研究を行う考えについて伺う。

A 本市の教育の強みは、豊かな自然や歴史、文化と長年築き上げてきた地域との協力関係に基づく教育にあると認識している。小規模校の特性を活かしたきめ細かな教育や、地域資源を活用したふるさと教育は、本市の大きな強みである。現在、市外居住者を対象に、本市への転校を前提とした体験入学を実施している。今後は、お試し移住を含めた対象範囲や体験期間について検討するとともに、短期的な区域外就学制度についても、関係課を含めて、受け入れ体制や環境整備など先進事例の調査研究を進めていく。

「子どもを育てるなら、あわら市がいい。」そんなまちを目指すことも人口減少対策の一つである。教育環境を地域の強みとして、未来につなげていきたいと考えている。

topic 05

いえ がみ まさ ゆき
家上 雅之 議員



テーマ あわら市小学校通学における児童の安全確保について

市長が掲げる、つながるあわらを実現する為には、子育て世代が安心して働ける環境整備が必要であると考えている。

Q あわら市内での熊出没・不審者情報・熱中症・大雪等、通学時の安全確保及び子供の送迎に係る親の負担軽減をどう考えるのか。

A 熊の出没時においては、学校・警察・少年愛護センター・鳥獣害対策室・猟友会・地域住民や見守り隊と連携強化し児童の安全確保に努めている。日頃から子供達には、熊をはじめ不審者・熱中症予防対策など自分たちができる対策方法を学校全体で指導している。教育委員会としては、他市町の取り組みも参考にしながら地域の見守り活動や関係機関との連携など、現在の安

全対策を継続し児童の安全確保に努める。

テーマ あわら市の道路への不法投棄対策について

「福井県の北の玄関口」として県内外から多くの観光客を迎え入れているが、主要幹線道路・山間部市道には多くの不法投棄物が目立つ。日本一綺麗なまちを目指したい。

Q 不法投棄されたゴミ回収費用・処分方法・量の推移、また不法投棄に対しての取り組みを伺う。

A 清掃センターでの処分費用を除く回収費用は年間約200万円、清掃活動等による把握可能な回収量は年間約6tで推移している。日常的な道路管理者によるパトロールのほか、警察などの関係機関や近隣市町と連携した広域的なパトロールなども実施している。また、各種団体と連携した清掃活動の実施や郵便局と連携した通報体制の構築に加え、監視カメラや注意喚起看板の設置等の施策を進めているが、依然として不法投棄は無くならず、今後も不法投棄の未然防止と早期対応に努める。

topic 06

なか しま みず き
中嶋 瑞希 議員



テーマ 教育現場における生成AIの校務活用と教育データ利活用の基盤整備について

生成AIを校務に活用するパイロット校(実証校)として、市内の学校が指定された。この取組を、教職員の業務負担の軽減や、子どもと向き合う時間の確保にどうつなげていくのか。また、教育データを安全に活用する基盤をどのように整備していくのか伺う。

Q 生成AIパイロット校の目的、対象業務、成果指標、検証方法、市内各校への展開及び教育委員会の支援体制を伺う。

A 細呂木小学校と金津中学校を指定校とし、文書の原案作成やアンケート分析等に活用する。生成AIの利用

率、時間外勤務時間、教員の意識や行動の変化を総合的に評価する。秋に中間検証、12月に外部有識者を交えた効果検証、2月に実践結果を報告する。その他の7校も研究協力校として取り組み、ICT教育指導員による支援、研修会、活用事例集の作成を行う。

Q 形成的評価や児童生徒自身の振り返りに生かすデータ基盤及びダッシュボードを整備できないか。

A 県内統一の校務支援ソフトと学習用デジタルAIソフトにより、個人の学習状況や理解度を可視化している。教育データ基盤等は市単独より県全体で整備すべきと考えており、必要に応じて県への要望を含めた対応を検討する。

現場に必要なデータや機能を把握し、安全で実効性のある教育DXに繋げてほしい。

topic 07

なか が いち か
中垣内 えり香 議員



テーマ 中山間地域・地域農業を守るための支援策と地域食料安全保障について

国の水田活用交付金の見直しは、中山間地や環境配慮型農業に不利な「収量連動型」へと移行し、地域の離農を加速させる懸念がある。

また、近年の米不足や海外からの資材・燃料高騰を受け、外部資源に依存しない独自の食料供給体制の構築が急務である。

Q 新制度の農家への柔軟な救済や周知の現状について伺う。また、新制度が中山間地へ与える影響の認識と、市独自のお米の備蓄を含めた地域食料安全保障計画を策定する考えはあるか。

A 新制度は、中山間地や環境配慮型農業の営農継続に影響を及ぼす懸念があるため、地域の実情に応じた基準収穫量の設定などについて国へ要望するとともに、地域農業を守るための支援のあり方を引き続き検討していく。

食料安全保障は本来、国が総合的に確保すべき課題であり、市独自の食料安全保障計画の策定は考えていないが、国や県の支援制度を活用しながら、農業者の経営継続と地域農業の維持に向けて必要な支援に努めている。

現場はもう限界を迎えている。今後も一生懸命頑張る地元の農家を絶やさず、大切な市民の命、暮らしと笑顔を未来へ守り続けるため、危機感を持った力強い応援と支援を心から求める。

topic 08

みなみ りょう いち
南 良一 議員



テーマ 部活動地域移行(地域展開)の持続可能な運営設計について

部活動の地域移行という全国的な課題に対し、指導方針の考え方、各団体との連携について市の方針を伺う。

Q 10年先も持続可能な体制となり得るのか、特に指導者の継続的確保や活動の育成方針について。

A 特定の個人に依存しない「あわらトリムクラブ」を運営母体とした組織的な運営体制を構築している。地域で活躍する人材を中心に複数の指導者を配置し、負担が集中しない体制づくりを進めている。また、研修会の実施や指導者認定制度の整備により資質向上に取り組んでいく。「活動の主役は子ども」との考えのもと、勝利至上主義ではなく、成長に寄り添う「伴走者」としての指導者の役割

が重要であると考えている。

子どもが情熱を傾け、自己肯定感を育める新たな社会教育事業としての光明を築くことを願う。

テーマ 放課後子どもクラブの持続可能な運営と「放課後の質」の向上について

安心・安全を基本として子どもの放課後における有意義な時間の確保について伺う。

Q 「安心・安全な預かり」から「放課後の質の向上」について。

A 日常運営は安全確保等で限界に近いが、長期休暇を活用した防災講座や体験教室を充実させている。今後は「子どものための支援」という共通方針を支援員間で共有し、質の高い運営に取り組んでいく。学校との情報共有や保護者との丁寧な対話は重要な要素であり、現場の状況を踏まえて工夫していく。

「地域の未来設計者」として、子どもが自己肯定感を育める豊かな場を今後も提供願いたい。

topic 09

しま だ とし や
島田 俊哉 議員



テーマ ふるさと住民登録制度の活用について

人口減少社会を前提に国が創設した「ふるさと住民登録制度」を、あわら市の第3次総合振興計画に掲げる人口減少対策、関係人口の拡大、担い手確保、交流の活性化にどう結び付けるかという観点で質問した。

Q ふるさと住民登録制度の活用方針、主な対象層、制度に取り組まない場合のリスク、市民が他自治体で得た知見の還元、県や民間事業者との連携、ちょうどよい住みかげん あわら市体感プロジェクトとの接続、コーディネーターや市独自施策の必要性を伺う。

A あわら市は、担い手確保や地域経済の活性化につな

げるため、制度導入に向けた準備と検討を進めている。当面は市民協働課を中心に準備を進め、既に本市と関わりのある方々を中心に登録を促し、農業分野やあわら温泉旅館の繁忙期支援、地域イベントや交流活動への参画などを通じて実効性のある活用を図る。

また、ベーシック登録者数の拡大を初期段階の目標とし、登録促進や段階的に関係を深める仕組みづくりの検討を進める。コーディネーター等は先行事例を踏まえ慎重に検討する。

制度導入を前提に前向きに検討する姿勢と、あわら市らしい特色を生かしながら関係人口の創出や担い手確保につなげていく考え方が示されたことは心強い。

topic 10

せき やま こう じん
関山 耕人 議員



テーマ 県水受水契約の二部料金制への見直しについて

令和8年3月に改正された県水受水費の基本料金水準についてどう評価しているのか。また、更なる固定費圧縮に向け、県との協議や更なる料金改定の可能性についてどのように考えているのか。

A 基本料金は、県の条例改正に基づき、今後10年間の浄水場や送水管の維持管理費・更新費などの固定経費を基に設定され、あわら市と坂井市の計画受水量に応じて負担している。市は県に対し、施設のダウンサイジングやコスト削減、ウォーターPPPや広域化による経費削減を要望するとともに、将来的な需要変化や経営状況を踏まえ、必要に応じて料金体系の検証・協議を行う考えである。

水道事業の広域化や官民連携についてどのような効果と課題を想定しているのか。

A 広域化やウォーターPPPは、水道事業を持続的に運営するための有効な手法であると認識している。広域化による施設の統廃合や業務の共同化は、維持管理コストの削減や人材確保、技術継承の強化につながる事が期待されます。また、ウォーターPPPは民間事業者の技術力やノウハウを活用し、業務効率化やサービス向上を図るものです。本市では今年度、導入可能性調査を実施しており、その結果を踏まえ効果や課題を検証してまいります。さらに、上下水道事業の将来のあり方については、今年度中に上下水道事業審議会を設置し、第三者の視点を取り入れながら幅広く丁寧に検討していきます。

水道は市民生活を支える重要なインフラである。今回の見直しで一定の負担軽減は図られましたが、人口減少に伴う経営課題は続く。市民負担の軽減と安全で持続可能な水道事業の実現に向け、今後の県との協議や広域化・官民連携の検討状況を引き続き注視していく。

※ウォーターPPP・・・水道事業を官民連携で運営・管理する仕組み

令和8年6月 定例会を開催しました

6月1日から23日間にわたって、6月定例会が開催されました。定例会では、令和8年度補正予算に加え、条例の制定や財産の取得、工事請負契約の締結など議案7件、陳情1件、発議1件を審議。6月11日、12日には10人の議員が一般質問を行いました。

6月1日の本会議では、児童・生徒用タブレットの取得議案が採決の結果、可決されました。また、6月23日の本会議では、各常任委員会での審査結果が報告され、採決の結果、すべての議案が可決されました。なお、陳情1件(食料・農業・地域政策の推進に向けた陳情)は採択となり、同趣旨の意見書をあわら市議会から国へ提出することが可決されました。

6月定例会の流れ

6.1 ▶ 6.23

月 日	会議名・会議内容
6 / 1 (月)	本会議 ・議案上程 ・会期決定 予算決算常任委員会 ・予算質疑
6 / 11 (木)	本会議 ・一般質問
6 / 12 (金)	本会議 ・一般質問
6 / 15 (月)	総務厚生常任委員会 ・議案審査
6 / 16 (火)	産業建設教育常任委員会 ・議案審査
6 / 22 (月)	予算決算常任委員会
6 / 23 (火)	本会議 ・質疑 ・討論 ・採決

令和8年度 一般会計補正予算(第1・2号) 成立

総額 **5億7,228万2千円**を増額!!

一般会計の予算総額は204億228万2千円となりました。主な歳出予算は、市立認定こども園主食提供事業、夢あるふくい園芸タウン拡大事業補助金、防災行政無線更新実施設計委託料、非常用発電機更新事業、文化会館解体事業、多様な宿泊施設整備支援事業補助金などが計上されています。

防災行政無線 更新事業

1,200万円

市内93か所に設置されている防災行政無線の更新が必要となり、1,200万円の実施設計委託料が計上されました。更新工事は令和9年度から2か年をかけ実施する予定です。議員からは、更新工事に併せ、無線の聞き取りにくさを改善する要望がありました。

文化会館 解体事業

2億7,390万円

昭和45年に竣工した文化会館について、今年度は建物の解体と基礎杭除去を施工し、コンクリート敷き部分や植林部分については、土地利活用の状況を考慮し、土地返還時の整地工事と併せて令和9年度以降に実施する予定をしています。地権者からは売却または賃貸の希望があるため、議員からは、早期の売却先等の決定を求める意見がありました。

シルバー人材センター 移転事業補助金

4,200万円

子どもの遊び場整備に伴い、あわら市シルバー人材センターが旧三菱農機販売株式会社芦原営業所へ移転するため、建物と土地を取得する費用を市が全額補助します。議員からは、シルバー人材センターの財政状況や今後の事業計画などについて質疑がありました。

令和8年度 予算決算常任委員会質疑

防災行政無線更新事業

補正予算額 1,200万円

質問 市民から防災行政無線が聞き取りにくいという声を聞が、今回の更新事業ではその改善策も検討するのか。

答弁 防災情報の提供は防災行政無線だけでなく、防災メールやアプリ、電話による音声確認などの多重化を進めているが、更新工事には音達調査や音響調査を実施し、その結果に基づき改善も図っていきたい。

市立認定こども園主食提供事業

補正予算額 143万3千円

質問 10月から実施するこの事業について、主食費として700円を保護者負担金としているが、給食費無償化が進む中で、今後負担軽減を図る考えはないか。

答弁 実際には主食提供に要する経費が一人当たり約1,300円になるので、さらなる負担金の減額は難しいと考えている。

ふくいのスマート農業加速化事業補助金

補正予算額 5,865万円

質問 ドローンなどのロボット技術を活用したこの事業について、県の補助申請が不採択となった場合の対応はどうなるのか。

答弁 補助の採否は県のポイント制による審査で決定されるもので、不採択となった場合でも翌年度以降に再チャレンジできる仕組みになっている。

観光まちづくり事業補助金

補正予算額 2,748万円

質問 複数の事業を一括して計上していてスケジュール感が見えにくい。ため、丁寧な進捗の説明を求める。

答弁 活用する国庫補助金の期限により単年度での完了が求められる多数の事業を、並行して進める必要がある。昨年度の社会実験の結果を踏まえ、デザイン会議等で機能を精査し、その経過を議会へ報告しながら進めていく。

文化会館解体事業

補正予算額 2億7,390万円

質問 建物の解体後の土地返還の進捗状況はどうなっているのか。

答弁 昨年度から地権者への説明会を複数回開催しており、地権者全員が、売却または賃貸の希望をしているので、その意向に沿って、早期に準備を行なっている。なお、現在の土地賃貸借契約は、売却先等が見つかり返還が完了するまで継続する。

意見 議員からは企業誘致等を見据え、舗装部分の土地を傷めないよう配慮して解体工事を進めるとともに、公費負担を減らすためにも早期の売却先決定に努めること。

ちようどよい住みかげん あわら市体感プロジェクト事業

補正予算額 172万1千円

質問 単に観光や体感ツアーを楽しんでもらうのではなく、目的である移住や定住につながることを意識して取り組んで欲しい。

答弁 この事業は昨年度から始め、現時点では移住につながった事例はないが、将来的な移住・定住につながるよう更に努力していきたい。

補聴器購入支援事業補助金

補正予算額 50万円

質問 障害認定に至らない難聴者の補聴器購入に対して2万円を限度に支援するとのことだが、補聴器の価格帯はどの程度を想定しているのか。

答弁 補聴器の機能によって価格帯は大きな差があるが、4万円程度から購入出来るものがあるので、購入の後押しになればと考えている。

シルバー人材センター移転事業補助金

補正予算額 4,200万円

質問 市が土地と建物を購入して、シルバー人材センターに貸与できないのか。

答弁 市が購入することも検討したが、市の公共施設再配置計画(市の財産のスリム化・リニューアル化)の観点とシルバー人材センターによる購入意思があった為、シルバー人材センターが購入することになった。

生成AIパイロット校事業

補正予算額 100万円

質問 生成AIパイロット校事業費(生成AIの活用、課題を検証)の具体的な活用方法はどうか。

答弁 校務利用による教職員の業務改善や、授業での利活用を研究するためのものである。交付金は物品購入でなく、先進地の視察旅費や外部講師への謝礼に充て、ICT指導員による各校への巡回指導を通じて、子どもたちや教職員にとって最適な活用方法を模索していく。

北潟湖カヌーポロ競技場観覧席整備事業

補正予算額 1,130万円

質問 観覧席と湖の境に柵が設置されないが安全対策はどうなっているのか。

答弁 現状の景観や他県の事例を踏まえ、現時点での柵の設置は考えていないが、転落防止のため、工事の際には路面への色付けや目印の設置など、安全確保に向けた手法を検討していく。

委員会の詳しい内容は、右記QRコードから動画の再生リストをご覧ください



YouTube

議案の結果



第132回 あわら市議会定例会
採決で賛否が分かれた議案はありませんでした



全ての
議案一覧は
こちらから

各委員会の活動報告

未来のために、 いっしょに考えよう。

市民の皆さんの声を市政に届け、よりよいまちづくりを進めるために、
議会ではさまざまな委員会を中心に調査・検討を行っています。

わたしたちのまちの、
これからをつくる。



議会活性化特別委員会

PICK UPテーマ 市民との対話や広聴機能を強化！

議会活性化特別委員会では、市民に開かれた、より
分かりやすく親しまれる議会を目指し、市民との対
話や広聴機能の強化に取り組んでいます。

皆さまとの対話を大切
にし、開かれた議会づ
くりを進めてまいりま
す。

主な議論

- ☑ 議員と語ろう会
(春・秋開催、団体は随時受付)
- ☑ 子ども議会(小・中・高校生)
- ☑ 広聴機能の強化

委員長
青柳 篤始



人口減少対策特別委員会

PICK UPテーマ 人口減少をどう乗り越えるのか、 現実的な解を見つけまちに還元

人口減少と少子高齢化について、現状を把握し、原因を理解する。
そして、現実的に乗り越える方法を探り、まちの政策へ落とし込むための
駆動力となることを目指します。

月1、2回のペースで議論を重ねています！
住んでみたい、そして住み続け
たいまちとは何か？を行政と一
緒に本気で考えます。

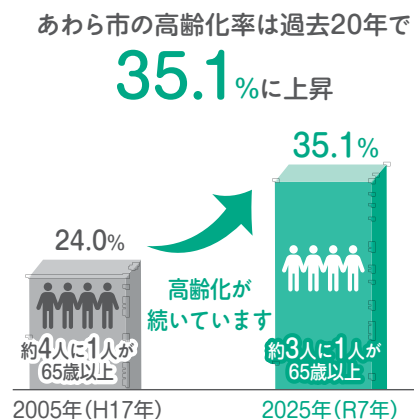
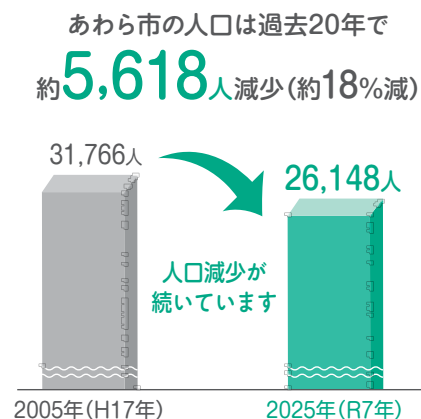


↑委員会ホームページ

委員長
三上 寛了

主な議論

- ☑ 教育の価値化とふるさと愛の醸成
- ☑ 移住と農業、観光、工業
- ☑ 財政への影響と企業誘致
- ☑ 女性が活躍できるまち
- ☑ 暮らしやすさと満足度
- ☑ 出生率と結婚観の変化



防災・減災対策特別委員会

PICK UPテーマ 現場で活かせる防災・減災対策とは？

防災・減災対策特別委員会では、
市民の皆さまの被害を少しでも減
らすため、現場で活かせる防災・
減災対策の調査・研究を進めてい
ます。



災害は事前の備えが大切です。
早期注意情報が発表されたら
備えを始め、警戒レベル4まで
に避難しましょう！



副委員長
家上 雅之

主な議論

- ☑ 地域防災力の向上
- ☑ 避難所運営の充実
- ☑ 自主防災組織の活性化
- ☑ 個別避難計画の推進
- ☑ 防災DX・デジタル活用

広報特別委員会

PICK UPテーマ 「へえー そうなんだ！」が見つかる議会だより

市民の皆さんに、議会でどのような議論が行われ
ているのかを分かりやすくお伝えするため、オール
カラーやイラストを取り入れながら、読みやす
く、伝わりやすい紙面づくりに努めています。

主な議論

- ☑ 議会だよりの紙面リニューアル
- ☑ 情報の見やすさ・わかりやすさの向上
- ☑ 市議会HPの構成見直し
- ☑ 広報広聴ビジョンを検討中



議会クイズ!!
議会を補佐している議会事務
局は何名いるでしょう?
答えは下↓をみてね



副委員長
中嶋 瑞希

議会運営委員会

PICK UPテーマ 市民の負託に応える議会を目指して

議会が円滑に運営されるよう議会運営の交通整理を行っています。また、市民の
声をしっかり受け止め、市民の負託に応える議会であり続けるため、組織規模の
見直しと能力向上を両立させる構造改革について協議を進めています。

これらの取り組みを通じて、将
来にわたり市民の負託に応え
られるよう、より機能する議会
づくりを進めていきます！



委員長
笹原 幸信

主な議論

- ☑ 議員定数の見直し
- ☑ 政務活動費の支給
- ☑ 決算を予算に反映させる仕組みづくり
- ☑ 議会基本条例の見直し
- ☑ 政策提言能力の向上

あなたと、 つながる議会へ。

あなたの声が、
未来を変える。

もうすぐそこに。

